

障がい当事者部会 報告書

会議名	第1回 障がい当事者部会		
開催日時	令和8年8月14日(金) 14時00分～15時50分		
開催場所	板橋区立グリーンホール 1階ホール		
出席者数	8名(欠席1名)	傍聴者数	0名

協議事項(2件)

議題名	ライフステージごとの支援に関する年表作成について
概要	障がい当事者部会では、当事者が何歳の時に何をしていくと良いか等をまとめた年表を障がい種別ごとに作成してきた。この「ライフステージごとの支援に関する年表」について、令和7年度第2回当事者部会で出された意見を踏まえ、事務局において用語の統一や内容の修正等を行ったことを説明した。 また、障がい児部会及び相談支援部会に年表を提示し、さらなるブラッシュアップを図るため意見を募り、反映すべきものについては年表に取り入れた。 当日は、出席者を2つのグループに分け、年表の見やすさや、他部会から寄せられた意見のうち取り入れるべき内容について検討するため、グループワークを実施した。
主な意見	・ネガティブな表現は控え、こういった支援が必要なのかという書き方に変えた方がいい。とりわけ、発達障がいの年表に記載されている、「ライフステージごとの課題」については、ポジティブな表現に変えた方がいい。 ・50代から医療機関との連携が大事になることを、すべての年表に入れた方がいい。 ・「親が亡くなる」の文言については削除し、肢体不自由の年表にある「親亡き後を考える(親が元気なうちに)」という項目を、すべての年表に入れるのがいい。 ・視覚障がい者向けの訓練施設につなげてほしいので、一覧のような形で年表に記載してほしい。 ・精神障がいの年表の「サンライズ高島平」については、入れるかどうかは事業所の意向もあるため、事務局に一任する。 ・「65歳の壁」については、手当がもらえなくなることを加えつつ、すべての年表に入れてほしい。 ・「本人口座の作成」について、障害年金は本人の口座が必要であることを記載した方がいい。ETCカードについても同様。 ・「老後の過ごし方」は70代ではなく、50代に変更したい。特に知的障がい者は老化がとても早いので。 ・障がいと老化が重複した際、医療機関とつながっていた方がいいので、そのことが分かる文言を入れた方がいい。
今後の方向性	今回の部会において年表は概ね完成したことから、今後は部会員と個別に調整を行いながら、細部の内容について最終的な修正・確認を進めていくこととする。 また、完成後は自立支援協議会のホームページ等で公開する予定である。

議題名	相談フローチャート（仮）について（相談支援部会より）
概要	相談支援部会からの依頼事項について説明した。 相談支援部会では、区内の相談支援事業者等が、困りごとが生じた際に適切な相談先を確認できるよう、相談先に関するフローチャートの作成を進めている。基本的には、当事者や家族ではなく、支援者に使ってもらうことを想定している。 障がい当事者部会では、部会員から「相談先をたらい回しにされた経験」や「相談先が分からず困った経験」などについて率直に意見を出していただき、その内容を相談支援部会へフィードバックすることとした。 当日は参加者を2つのグループに分け、グループワーク形式で意見交換を行った。
主な意見	・複数の相談先を案内する形式となっているが、当事者の立場としては、まず幅広い相談に対応できる総合的な相談窓口が1か所にあるとよい。 ・病院では、「地域に相談しましょう」と言われ、地域では「病院に相談を」言われたことがある。 ・複合した問題があると、相談を受けてもらえず、たらい回しになることがある。 ・手話通訳者が相談対応も合わせて行っている窓口があり、聴覚障がいに関する相談先は、実質的にある程度一本化されている。 ・相談窓口につながることは重要であるが、その後も継続して支援が受けられるよう、専門的な知識を有する職員による対応を希望する意見があった。電話で相談しても、その先の支援につながらず、相談がそこで止まってしまうことが多いとの声が聞かれた。 ・フローチャートのさらにその先の話にはなるが、最終的に障がい者に特化した専門家につながるようにしてほしい。 ・フローチャートの形式や内容については、特段の意見はなかった。
今後の方向性	今回出た意見内容については、相談支援部会にフィードバックした。 今後も、他部会と連携して取り組むことができる事項については、積極的に連携を図りながら進めていく。